

今回の身近な生きもの調査では、多くの方々の参加によって、みなさんにとっての身近な林がどのような姿をし、そこではどんな生きものが見られるのかについてたくさんの情報を集めることができました。

調べていただいた身近な林は、「まわりの環境」としては住宅地、「林の種類」としては公園の林、「植生」としては落葉広葉樹を中心とした林がもっとも多数を占めていました。また、しばしば、或いは時々人を見かけることのある林が多く、「訪れる人の目的」はどのタイプの林でも散歩が1位でした。

記録された動植物については、それぞれの項目で詳しく述べたとおりですが、市街地・住宅地の公園林であっても、その地域の自然の特性を反映した動植物が、種数は少なくとも見られたというのが共通した傾向でした。たとえば、赤い実では鳥が運んだと考えられる自生種が見られ、タンポポでは在来種が予想以上に多くの林で見つかりましたし、黄色い花では、都市種だけでなく里山種のいくつかが必ずといってよいほど記録されました。多くの項目で、まったく1種も見つからないのは稀なことでした。こうした結果は、都市部の小さな林であっても、野生生物のすみかとしての働きを持っていることを示しているといっってよいでしょう。

かつて、身近な林の多くは農林業によって維持管理されるのが普通のことでした。しかし、時代の変化とともに産業的に利

用されない林が多くなり、一方で公園や保存緑地のように公有化される林が増えて、その管理に市民が関わる例も多くなってきました。そうした身近な林の管理については、いくつかの考え方があります。ここでは身近な林の管理のされ方を3つに分けて考えてみたいと思います。1つは公園などで行われている「造園的管理」と言われるものです。公園では、訪れた人が心地よく過ごせることを最優先し、下草が少なく見通しのよい状態に管理されることが多くあります。一方、2つ目の「里山的管理」と言われるものは、薪や炭を作るために利用されてきた雑木林の姿を理想とし、下草刈りや定期的な伐採などの伝統的な技術を応用した管理がなされることで、このような場所も最近増えてきています。また、林に人手が入らなくなると、植生の遷移が進み、関東地方より西では常緑広葉樹、それより北では落葉広葉樹や針葉樹を中心とした林に移り変わり、そうして自然にできていく極相林こそ重要だという「保護的管理」という3つ目の考え方もあります。

地域にあるさまざまな林では、どのような管理がふさわしいのかについて、それぞれに議論や模索が行われています。「造園的管理」には、生きものに関心のある人たちからは人手が加わりすぎるという批判があったりします。一方、「里山的管理」や「保護的管理」に対しては、虫や小動物が多くて不快だと感じる人も少なくありません。林床の草やササが茂ってくると、

林のタイプ別結果一覧

身近な林の調査結果を、林のタイプごとにまとめてみました。

みなさんが調査した林はどのような結果になりましたか。調査の結果を記入して ~ の表の結果と比べてみましょう！

林のアンケートの結果

林のタイプ	落ち葉 かき ¹⁾	下草 刈り ²⁾	人の出 入り ³⁾	訪れる人の目的			ゴミの量 ⁴⁾	ゴミの種類		
				1 位	2 位	3 位		1 位	2 位	3 位
① 	+	+	+	散歩	ジョギング	自然観察	-	空き缶・ペットボトル	紙くず	タバコ
② 	+	+	+		自然観察	ジョギング	-			弁当がら・タバコ
③ 	-	-	+			ハイキング	-		紙くず	空き缶・ペットボトル
④ 	-	+	+			山菜取り	山菜取り	-	空き缶・ペットボトル	紙くず
⑤ 	-	+	+		自然観察		-	タバコ・紙くず		
⑥ 	-	-	+		ハイキング		-			
⑦ 	-	-	+							
あなたの林の結果を記入してみましょう!										

凡例

1) 落ち葉かき：「落ち葉かきしている」が50%以上の場合+、50%未満の場合-

2) 下草刈り：「下草刈りしている」が50%以上の場合+、50%未満の場合-

3) 人の出入り（人をよく見かけますか）：「よく見かける」「時々見かける」の合計が、50%以上の場合+、50%未満の場合-

4) ゴミの量：「なし」「ごく少量」の合計が、50%以上の場合+、50%未満の場合-

① 市街地・住宅地の公園林

② 市街地・住宅地の屋敷林・社寺林

③ 市街地・住宅地の保存緑地・斜面林

④ 農村の公園林

⑤ 農村の屋敷林・社寺林

⑥ 農村の保存緑地・斜面林

⑦ 農村の山地林



「里山的管理」を目指す人からは手入れをした方がよい林と見られますし、「保護的管理」の立場からは遷移が進んで望ましい林の姿と捉えられます。

どの立場が適切なのかは、その林の置かれた環境や条件によって一概に言えません。しかし、考え方や立場の違いはあっても話し合いを重ねて共通理解を作っていくことは、それぞれの林の将来にとって、たいへん重要な課題だと考えられます。そのなかで是非お願いしたいことは、都市部の林であっても、それは人間だけのためのものではなく、生きものたちのすみ場所でもあることを忘れないでほしいということです。

多くの生きものが見られることは、人間にとっても役に立ちます。きれいな花や可愛い小鳥などとの出会いは、それに気づく心さえあれば、私たちの暮らしに楽しみを与えてくれるでし

ょう。毛虫やヘビを見つけてびっくりしたり、気持ちが悪いと感じたりすることさえ、こども達の心の成長にとってはその幅を広げるだいじな役目をしてくれるのではないのでしょうか。

今回の調査では、それぞれの林がどんな条件を持てばより多様な生きもののすみかになるかについて、具体的な方向付けまで浮かび上がらせることはできませんでした。しかし、ドングリ・赤い実・タンボボ・黄色い花・セミ・夏の虫が、そうしたことを考えていくものさしとして役立つことはある程度示すことができました。それぞれのものさしについて、さらに細かい環境条件との関連をつかんでいくことが今後の課題と言えるでしょう。また、それぞれの場所について、より多くの赤い実やいろいろな虫が見られるようにするにはどうしたらよいかをみなさんにも探っていただきたいと思います。



Ⅱ 動植物の結果(秋冬調査)

林のタイプ	ドングリ								赤い実								平均種数
	出現率の高い種トップ3								出現率の高い種トップ3								
	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄	
① 																	2.3
② 	ミズナラ	コナラ	コナラ	コナラ	コナラ	コナラ	アラカシ	アラカシ	ナナカマド	ガマズミ類	カラスウリ	ガマズミ類	クロガネモチ	ガマズミ類	ナンテン	カラスウリ	2.2
③ 保	カシワ	ミズナラ	クヌギ	クヌギ	アラカシ	アラカシ	コナラ	コナラ	ニシキギ類	ニシキギ類	ガマズミ類	ヤブコウジ	ガマズミ類	サルトリイバラ	クロガネモチ	サネカズラ	2.7
④ 	コナラ	クヌギ	シラカシ	アラカシ	クヌギ	クヌギ	クヌギ	コジイ	イチイ	ノイバラ類	シロダモ	ノイバラ類	ソヨゴ	ヤブコウジ	ノイバラ類	フユイチゴ類	3.4
⑤ 	ドングリの結果を林のタイプ別に知りたい方は16～18ページに詳しく載っていますので、ご覧ください。								関東地方の赤い実については、林のタイプごとに詳しく載っていますので、20ページをご覧ください。								2.6
⑥ 保																	3.2
⑦ 																	3.6
あなたの林の結果を記入してみよう!	見つけたドングリは？								見つけた赤い実は？								種数は？

Ⅲ 動植物の結果(春夏調査)

林のタイプ	春の調査				夏の調査				
	タンボボ		黄色い花		セミのぬけがら			夏の虫	
	出現率		都市種	里山種	出現率の高い種トップ3			平均グループ数	最大グループ数**
	在来種*	外来種*	平均種数	平均種数	北陸・甲信以北	関東	近畿以西		
① ㊦			2.1	1.3				0.8	6
② ㊦		○	2.1	1.2	アブラゼミ ニイニゼミ	アブラゼミ ヒグラシ	アブラゼミ クマゼミ	0.9	5
③ 保		○	2.2	1.9	ヒグラシ・ミンミンゼミ	ミンミンゼミ	ニイニゼミ	1.3	6
④ ㊦		○	2.0	2.4				1.2	7
⑤ ㊦	○	○	1.9	2.0	アブラゼミ ヒグラシ	アブラゼミ ヒグラシ	アブラゼミ ニイニゼミ	1.3	7
⑥ 保		○	1.8	2.4	ニイニゼミ	ニイニゼミ	クマゼミ	1.3	6
⑦ ㊦		○	1.5	2.5				1.5	7
あなたの林の結果を記入してみよう!	見つけたタンボボは？		見つけた黄色い花の種数は？		見つけたセミのぬけがらは？			見つけた虫のグループ数は？	

凡例

* 在来種・外来種：タンボボの出現率が0～30%の場合×、30～50%の場合○、50～70%の場合○、70～100%の場合○

** 最大グループ数：調べた夏の虫の全7グループのうち、「見つかったグループ数」の最大値を示しました。